別府八湯町おこし報告

『今日新聞』記事提供
『大分合同新聞』同右

市内五地区「歩こう会」
郷土の歴史と文化を探ろう

編集部

一　竹瓦かいわい路地裏散歩
出合いで世界広がる

現在（平成十五年）月に一回ないし二回行われている町歩き（別府八湯ウォーク）だが、回数を増やして日常化させる試験運行が二月一日から四月六日まで、実施された。昨年九月に発足した「別府八湯トラスト」が主催し、別府市観光協会の「語り部の会」が協力する。

新たにボランティアガイドを養成しようと、今月十日から十九日まで五回にわたり、実際に竹瓦路地裏散歩と山の手レトロ散策のコースを歩いて研修が行われた。「語り部の会」受講生の中から現在九人が参加し、必死に解説内容を身に付け、慣れないマイクを片手に奮闘した。

山の手レトロ散策の案内を担当する〝新人ガイド〟の一人、二野宮スミさん。大阪の病院で働き定年退職で別府に移り住んだ。「温泉でのんびりしようと別府に住むようになりましたが、やはり何かお役に立つことをしないといけませんね」。まだぎこちないものの、解説マニュアルはすっかり頭に叩き込んでよどみない説明ぶり。「女性3人が交代で担当しますが、自分なりのものを織り込みたい」と抱負。「命懸けです」と意気込む。

竹瓦界隈（かいわい）路地裏散歩の〝新人ガイド〟の一人、公務員の北澤健一さんは「今まで知らなかった人と触れあったり、知らない場所に行ったりして、自分の世界が広がる。自分を向上させるのにも役立ちます」とガイドの楽しさも語る。―「別府の活性化に役立ちたい」、と。

去る竹瓦界隈路地裏散歩の研修では、ベテランガイドの平野芳弘さんが同行。「住民の迷惑にならないように、マナー

田の湯館前で解説の練習をする二野宮さん

を守ることが大事」とアドバイス。

別府八湯トラスト町歩き担当の野上泰生さんによると、研修生たちのやる気は非常に盛り上がっている。ただ期間中の町歩き回数が多いため、さらにガイド希望者を募集しており「まだ人数が足りない。やってみたい人を募集しています」とのこと。

ベテランの平野さん（右）がアドバイス＝竹瓦温泉前で

期間中に行われるのは竹瓦界隈路地裏散歩（月曜日をのぞく毎日で）、山の手レトロ散策（毎週金・土・日曜日）でそれぞれ午前十時にＪＲ別府駅集合、参加費七〇〇円（おやつ付き）。それぞれ主なコースは「竹瓦界隈路地裏散歩」が駅前高等温泉、国際民宿こかげ、やよい銀天街、喫茶アホロートル、友永パン、長寿味噌、別府カトリック教会、児童館、紙屋温泉、羽衣温泉、中浜地蔵尊、楠温泉、寿温泉、鶴田家こて絵、波止場神社、竹瓦温泉。

「山の手レトロ散策」（次節）が岡本太郎画伯の壁画、野口病院、田の湯温泉、田の湯館、中央公民館、九日天温泉、宮地獄神社、別府公園、聴潮閣。

二　山の手レトロ散策
洒落た建造物、参加料もお得

まもなく三年を迎える山の手レトロ散策。その名の通りレトロな別荘や公共建築など見所が多く、おしゃれな山の手地域をめぐるウォークは毎月第一日曜日に開催されている（主催・別府八湯山の手倶楽部）。

午前十時にビーコンプラザのグローバルタワー下に集合。タワー上の展望台からロマン香る別府の一大自然景観の誕生と別府八湯の個性を説明して別府市内の眺望を楽しみ、また真下には広大な敷地の中山別荘（旧和田豊治氏邸）を見ることができる。

主なコースは大正十三年建築の京大地球熱学研究施設、ビーコンプラザ、別府観光の父油屋熊八翁記念碑のある別府公園を抜け、昭和初期の高級住宅である青山町の聴潮閣高橋記念館でお茶とお菓子の休憩。

柳原白蓮の歌碑など赤銅御殿跡、若くして亡くなったシンガーソングライター大塚博堂の生誕地跡、昭和三年建築の元別府市公会堂（現別府市中央公民館）、レトロな洋館の田の湯館、サンドラッグビルの岡本太郎壁画「緑の太陽」、大正十一年に開設された洋風建築の野口病院まで約二時間半の行

程をめぐる。

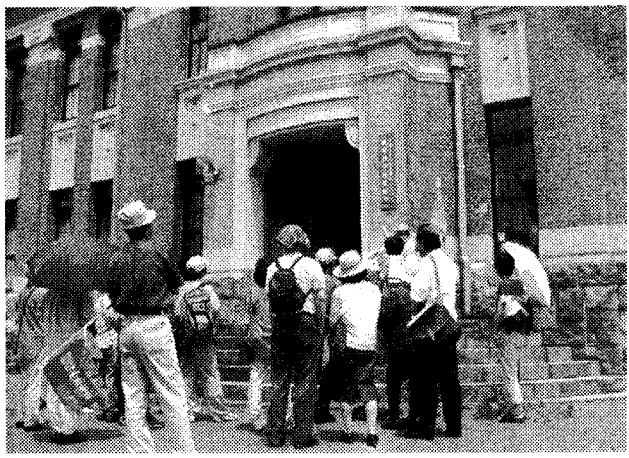
ちなみに、最近新聞記事などでも話題になった「緑の太陽」はビル壁面に、信楽焼の陶板タイルを張り付けたもの。大阪万博で岡本氏はシンボル「太陽の塔」を作ったが、その前年の四十四年八月二十六日に除幕されている。

昼食は信濃屋のダンゴ汁、または青山コーヒー舎のサンドイッチバイキングのどちらかを選べる。さらに希望者は、終了後にホテル「白菊」で入浴もできる。

参加費は一五〇〇円で、他のウォーキングと比較すると高いが、グローバルタワーや聴潮閣の入場料・昼食代・写真代、白菊の入湯料をそれぞれ個別に払った場合を考えると非常にお得な値段設定になっており、至れり尽くせりのゴージャスな内容のウォークである。

昔から変わらない聴潮閣の応接間

平成十二年九月に第一回が開催されており、次回九月七日でまる三年ということになる。オリジナルバージョンに加え、市観光協会・語り部の会ガイド部会の人たちのガイドによるウォークも毎週日曜日（第一をのぞく）に開催されている。こちらは午前十時にＪＲ別府駅の案内所前集合で、参加費は七〇〇円（おやつ付き）。



大正13年築の京都大学地球熱学研究施設

三　浜脇温泉セピア色散歩
心落ちつく古い町並み

今年（平成十五年）二月から、毎週日曜日に開催されているのが「浜脇温泉セピア色散歩」（浜脇倶楽部　安藤康男さん）。明治四十四年開業当時の姿を残すＪＲ東別府駅に午前

十時集合で、参加費七〇〇円（おやつ代込み）。

別府の温泉場の発祥の地とされる浜脇は、再開発事業で大きく姿を変えているものの、明治－大正－昭和初期の建物が多く、参加者の心を癒してくれるウォーキング。主なコースは、駅前から旧東町の昔のままの風情を残すゆるやかなカーブの道を進み、昭和初期に建てられた阿部久綿店で昔の商家の雰囲気を味わったり、江戸時代から続く共同井戸では水汲み体験も。沿道に明治四年築の桝屋糸永家のどっしりした建物や、戦前から変わらない阿部京商店のレトロな看板もある。

途中は山手に上って、長覚寺（下ん寺）と崇福寺（上ん寺）をめぐり、浜脇や別府全体の眺望も楽しむ。かつての名所浜脇公園（現在は浜脇中学校）、滝壺の水しぶきが涼しげな河内渓谷や修福寺をめぐる。

後半は旧国道以前の主要道だった西町を行き、明治以前にさかのぼると思われるどっしりした土蔵作りの建物や、明治二十二年建設当時とほぼ変わらぬ姿を見せる荒金家などを眺め、最後は大正六年築の立派な洋館平尾邸の堂々とした姿に圧倒されるという次第。

かつての遊郭の面影を残す建物や、今では珍しくなった木造三階建てなども見ながら、旧新町の新玉旅館で手作りのおいしい漬け物などをいただきながら感想を述べあう。参加者

浜脇１丁目の井戸そばでお茶の接待を受けるウォーク参加者（H15.2.4）

からは、古い建物を大切に使っている生活ぶりに感銘を受けたという声が多く出された。

県道・別府挟間線の道路工事で、ここ二年ほどの間に東別府駅前から旧国道沿いの町並みは次々に姿を消し様子が一変してきている。昨年八月は明治十年開業の天神丸・日名子装飾が、一昨年十月には一七〇年以上の歴史があった左甲斐家（天保二年築）が更地に変わった。変貌しつつあると同時に、いつまでも変わらぬ浜脇をウォークに参加して見つめてみてはどうだろうか。

四　鉄輪湯けむり散歩
おやつでお腹いっぱい

別府市内のウォーキングの中でも、スタートして三年半になるのが「鉄輪湯けむり散歩」。

地元の町作りグループ、ＮＰＯ法人「鉄輪湯けむり倶楽部」メンバーがガイドをつとめ、毎月第三日曜日に実施している。ちなみに昨年度だけでも臨時開催分を含めて合計二十九回にも上り、六〇三人もの人が町歩きを楽しんでいるという盛況ぶり。

次回は今月十七日で、午前十時に大分みらい信用金庫鉄輪支店向かい側の「大谷公園」集合。駐車場は同支店駐車場を利用できる。参加費用は七〇〇円（おやつ、記念写真代込み）。もうもうと立ち上る湯けむりの側溝などからも立ち上る湯けむりの情緒は、鉄輪温泉ならではのこと。珍しい「地獄蒸し釜」も参加者を驚かせる。

入り込んだら道に迷いそうな裏通りを歩くのも、このウォークの特徴。さらに参加者を大喜びさせているのが、行く先々で出してくれるおやつ。その時々でメニューの変更はあるが、オリジナルの鉄輪豚まん、地獄釜でふかしたサツマイモや温泉卵、さらに石垣もちやぜんざいなどの振る舞いがあり、昼食はついていないもののウォーク終了時は「お腹いっぱいになった」と満足する声も聞かれた。

主なコースは、浄土真宗本願寺派第二十二世門主の「大谷光瑞終焉の地」である大谷公園を皮切りに、大谷会館、東郷青児の巨大な絵が飾られている鬼山ホテルロビー、県温泉熱花き研究指導センター、十万地獄公園、珍しい青い色の温泉がある神和苑、湯沢家で休憩。大黒屋の地獄蒸し釜、市営熱の湯、サカエ家を経て、鉄輪豚まん本舗、留学生が開いた雑貨屋「鉄輪楽星」、市営むし湯、一遍上人坐像が安置されている温泉山永福寺など。

「日頃入れない場所にも行けるのが魅力では」とガイドの一人、河野健司さん（ひょうたん温泉）。観光コースとはちがう湯治場の雰囲気をたっぷり味わえ、差し入れのおやつでお腹がいっぱいになるという、鉄輪のウォークを一度体験し

大量の湯が流れ込む〝湯の川〟も
鉄輪ならではの風景

道に迷いそうな裏通りを行く

てみるのもよいのでは……。

この他、俳句の「鉄輪湯けむり散歩」の句碑（十基）もいたる所に建てられており、文学好きの人にも楽しめる町歩きとなっている。

五　人情の町亀川湯遊散策
豊かな温泉とレトロな町

亀川地区の活性化をめざし、このほど住民有志と学生が結成した町づくりグループ「別府八湯亀川温泉『亀カメ倶楽部』」（世話人代表・高橋東洋雄さん）が主催する亀川ウォーク。これまでに三回開催され、合わせて八十人余りが豊かな温泉と古い町並みを実感した。四の湯、亀陽泉、浜田など有名な共同浴場があり、古くから湯治場として栄えた亀川温泉場。至るところに源泉が見られ、各家庭でも内湯を設けているなど豊富な湯量が参加者を驚かす。

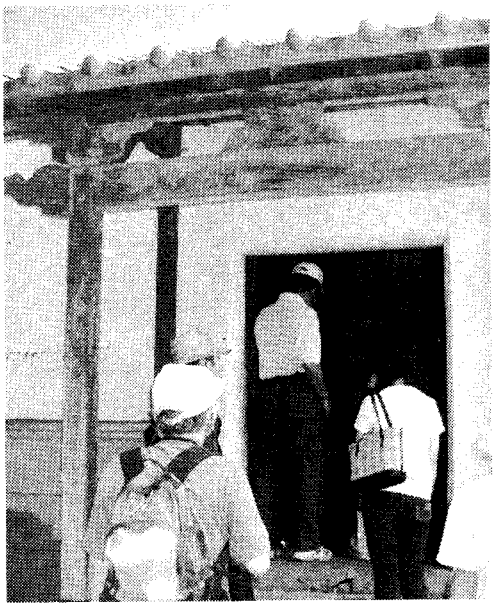
主なコースは、東別府駅と同じく明治四十四年五月開業時の姿をとどめる亀川駅を出発し、浜田の旧国道沿いではそれぞれ明治－大正からの長い歴史を持つ小松屋旅館と米屋旅館、それに竜の鰻絵、昭和初期からそのままの姿を見せる岩男自転車店、昭和十年築の堂々とした宮造りの旧浜田温泉など。

踏切をわたり亀川中央町では、かつては風情ある名所だった亀の甲広場、江戸時代に栄えた蕩耶泉跡をはじめ熱い湯があふれ出る泉源の数々、市の文化財に指定されている珍しい輪蔵（仏堂の中心に軸を立て八面の経棚を設け、これに一切経を納めて自由に回転する装置）がある西光寺や信行寺、古くから栄えた共同浴場「四の湯温泉」界隈を回る。さらに旧国道沿いの古い建物のうち、明治二十三年築の陶器店「からつや」では内部の見学も行い、どっしりとした造りと旧家の懐かしい雰囲気を存分に堪能する。

これまでのウォークではほかに小松屋旅館や伊藤酒店の内部を見学させてもらったり、蕩耶泉方面で広い庭や手の込んだ細工をほどこした立派な離れがある個人住宅を開放してもらい、亀川の歴史を実感する場面もあった。毎月第

一日曜日、午前十時に亀川駅集合。参加費はおやつ付き七〇〇円。問い合わせは、事務局の藤井石油（〇九七七―六六―一二九七番）まで。

元鍛冶屋の壁には
ユニークな鏝絵



市文化財の
西光寺輪蔵

来月７日は
亀川・西念寺などを回る

矢黒宮司（右）の解説を聞く参加者＝竈門八幡で

〔写真はいずれも
「今日新聞」〕